

科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業

実施計画名 : 北海道大学基礎科学人材社会活躍推進計画 (基礎科学 S-cubic)

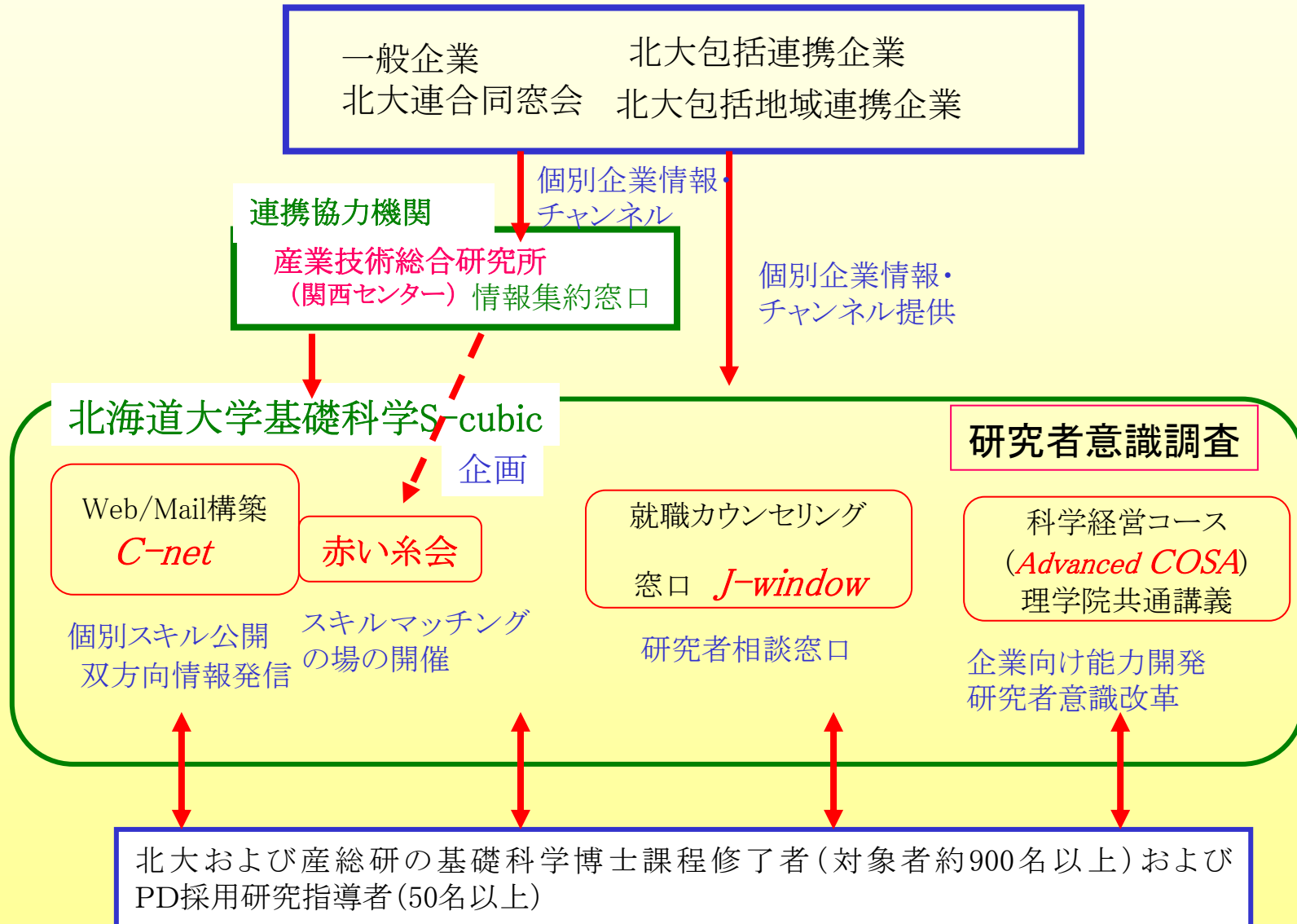
実施機関名 : 国立大学法人 北海道大学

<p>実施計画全体の取組内容</p> <p>本事業では、以下の5つの事業を柱に、①若手研究者自身および研究指導者の意識改革、②企業等との個別情報の統合と新しいチャンネルの構築、③若手研究者の能力開発等を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) <i>J-window</i> の開設: 就職窓口によるワンストップサービスの提供。 2) <i>C-net</i> の構築: 公開 web による若手研究者の自己 PR のための企業との間の双方向コミュニケーションシステム、就職情報の一括管理検索システム。 3) 科学経営 [上級] コース(<i>Advanced COSA</i>)の開講: 若手研究者のための能力開発カリキュラム開講 (2回)。 4) 赤糸会の開催: 企業担当者と若手研究者および研究指導者の面談会の開催 (年2回以上)。 5) 意識調査: 博士研究者および博士課程学生の企業への就職および企業の博士研究者および博士課程学生に関する意識調査。

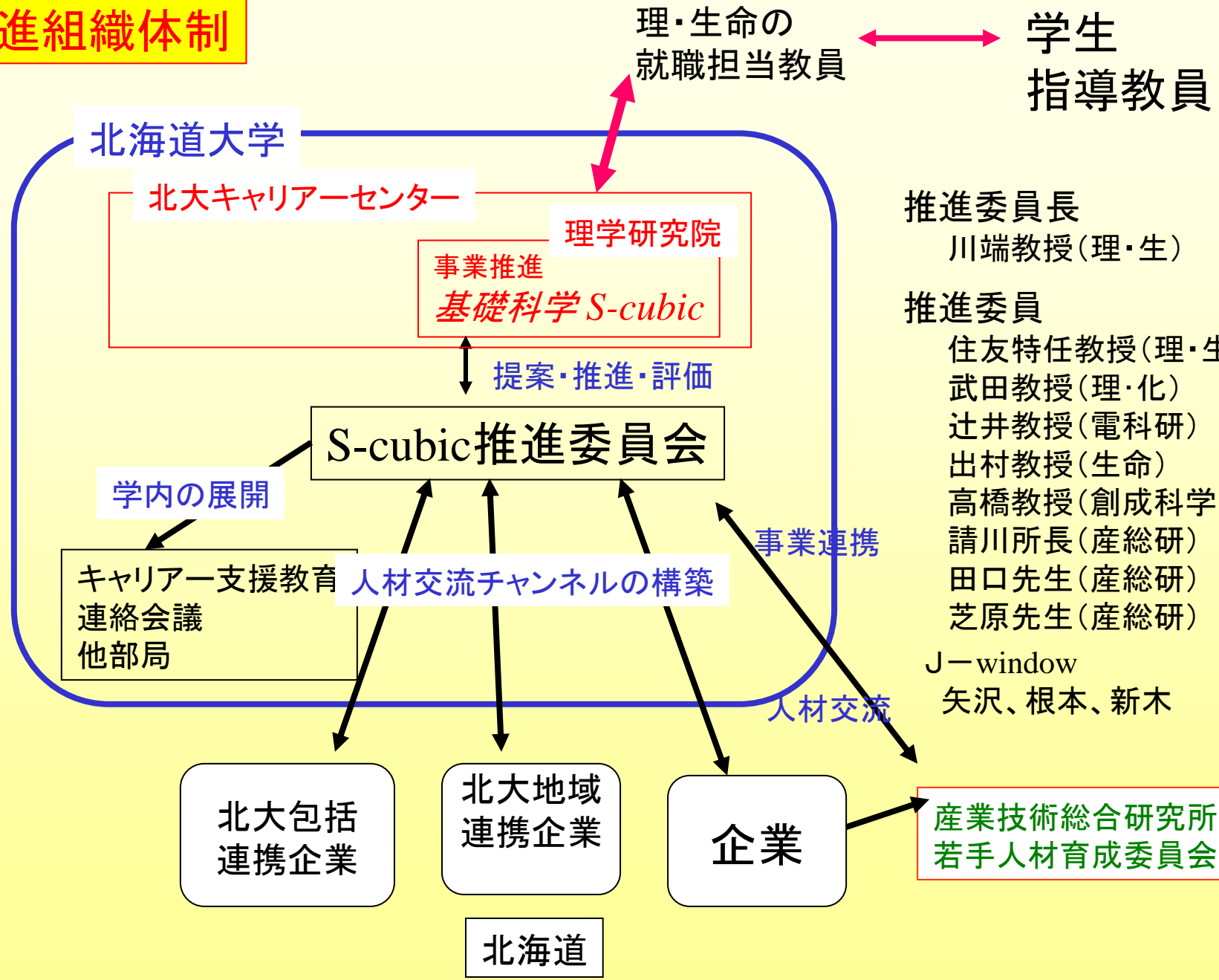
<p>達成目標 (事業全体および今年度)</p> <p>本事業は、単にPD、DCの就職の世話を探してきて見つけるものではない。PD、DC、指導教員に今おかれている状況を正確に認識し、DC課程およびPD任期間中にどのように大学のみならず企業も含めたキャリアプランを作り上げるか、そのための考え方、カリキュラム、制度を提供するものである。今年度は、推進組織を構築し、上記の事業を実施する。これにより、キャリアパスの問題点をPD、DC、指導教員へ周知を図るとともに、企業も含めた意識のずれの実態の整理を行う。</p>

<p>事業実施状況 (平成 18 年 11 月末現在)</p> <p>6月、本事業の推進母体となる、基礎科学上級スキル人材ステーション(Superior Skill Station): 基礎科学 <i>S-cubic</i> を立ち上げ、専任特任教授 1名、事務職員 3名を配置した。同時に、本事業の推進と運営に関する審議を行う推進委員会を、学内5教授と産総研・関西センターの関係者で構成し、立ち上げた。主要事業の実施状況は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) <i>J-window</i> の開設: 基礎科学 <i>S-cubic</i> のメンバーを中心に窓口業務をスタートさせた。ホームページを作成して学内外に広く事業内容をPRした。北大キャリアセンターの協力のもと就活カウンセリングもスタートさせた。 2) <i>C-net</i> の構築: 若手研究者および企業用登録システムと双方向コミュニケーションのための検索システムを構築した。DC、PD向け就職情報のデータ入力を行い、最新情報を提供している。 3) 科学経営 [上級] コース(<i>Advanced COSA</i>)の開講: 企業の研究所長クラスを講師として招き、企業研究の特徴、ダイナミクスさ、使命等を講義し、若手研究者の意識改革を図った。計画の2回を完了した。 <ul style="list-style-type: none"> ・第1回目: 8月3~4日開催。講師招聘企業: 日立製作所、新日鉄、花王。参加学生: 73名。 ・第2回目: 10月16~17日開催。講師招聘企業: 帝人、日産自動車、第一製薬。参加学生: 61名。 4) 赤糸会の開催: 第1回を10月23日東京(品川)にて実施した。若手研究者53名、企業21社(38名)が参加し、直接交流を図った。アンケートによると、リクルート情報では得られない話が聞けた、具体的に役立たせるための研究視点が生まれた、他研究室との交流が出来た等有意義な回答が得られた。企業の主な参加は以下の通り。石川島播磨重工業、NTT、KDDI、JR東日本、JFEスチール、大成建設、大日本印刷、帝人、東芝、ニコン、日産自動車、日本軽金属、日本製鋼所、富士電機、古川電工、明治乳業、リコー、BASF。 5) 意識調査: 博士研究者および博士課程学生の企業への就職に関する意識調査を実施した。理学院・生命科学院対象の就職意識調査のためのネットワークの構築を行った。アンケート配布: 350名。回収200名(回収率57%)。大学の職に魅力を感じるが、大学の職以外いやだという人は10%と低い。任期つき職もしくは学位取得のため、就職活動のゆとりも考えもないこと等が判明した。企業情報提供等支援の必要性が確認できた。 <p>この他、キャリアパスの問題は基礎科学の学生に特別のものではない状況が判明し、全学就職担当連絡会議等での問題点の報告ならび女性支援プログラムとの連携も進めている。10月に、筑波大学・小林信一教授、日本経団連産学官連携推進部会前会長・山野井昭雄氏他を招聘して記念講演会「博士」を開催し、博士号取得者の社会活躍を大学の重要な課題として議論した。また、産学官連携会議(京都)、イノベーションジャパン2006(東京)、北海道ビジネスエキスポ(札幌)に積極的に出展しPRを行った。</p>

北海道大学 基礎科学*S-cubic* 事業



推進組織体制



理・生命の
就職担当教員

学生
指導教員

北海道大学

北大キャリアセンター

理学研究院

事業推進
基礎科学 S-cubic

提案・推進・評価

S-cubic推進委員会

学内の展開

キャリア支援教育
連絡会議
他部局

人材交流チャンネルの構築

事業連携

人材交流

北大包括
連携企業

北大地域
連携企業

北海道

企業

産業技術総合研究所
若手人材育成委員会

推進委員長

川端教授(理・生)

推進委員

住友特任教授(理・生)

武田教授(理・化)

辻井教授(電科研)

出村教授(生命)

高橋教授(創成科学)

請川所長(産総研)

田口先生(産総研)

芝原先生(産総研)

J-window

矢沢、根本、新木

科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業

実施計画名 : 高度技術経営人財キャリアプラン

実施機関名 : 国立大学法人 東北大学

<p>実施計画全体の取組内容</p> <p>「高度技術経営人財キャリアセンター」を設置し、高度技術人材が社会で活躍できる人財となるよう支援する。</p> <p>1) 高度技術経営塾の設置 ポスドクや博士課程の若手研究者に対し、産学官の連携システムを活用し、専門知識の他に企業が最も必要としているテクニカルスキルとヒューマンスキルを重視した、塾方式による少数精鋭の実践的教育を実施する。</p> <p>2) キャリアアップ相談室の設置 相談室を設置。個別カウンセリング等の実施により、若手研究者に対する全学的なキャリアパス支援体制を作る。</p> <p>3) 人財と企業との交流の場作り 企業の工場・研究所見学会や、企業幹部及び博士課程卒の中堅技術者との交流会の実施。</p> <p>4) 組織運営 本事業を産学官連携推進の一環として、研究担当理事が指揮する。連携協力機関を含む運営組織を整備する。</p>
--

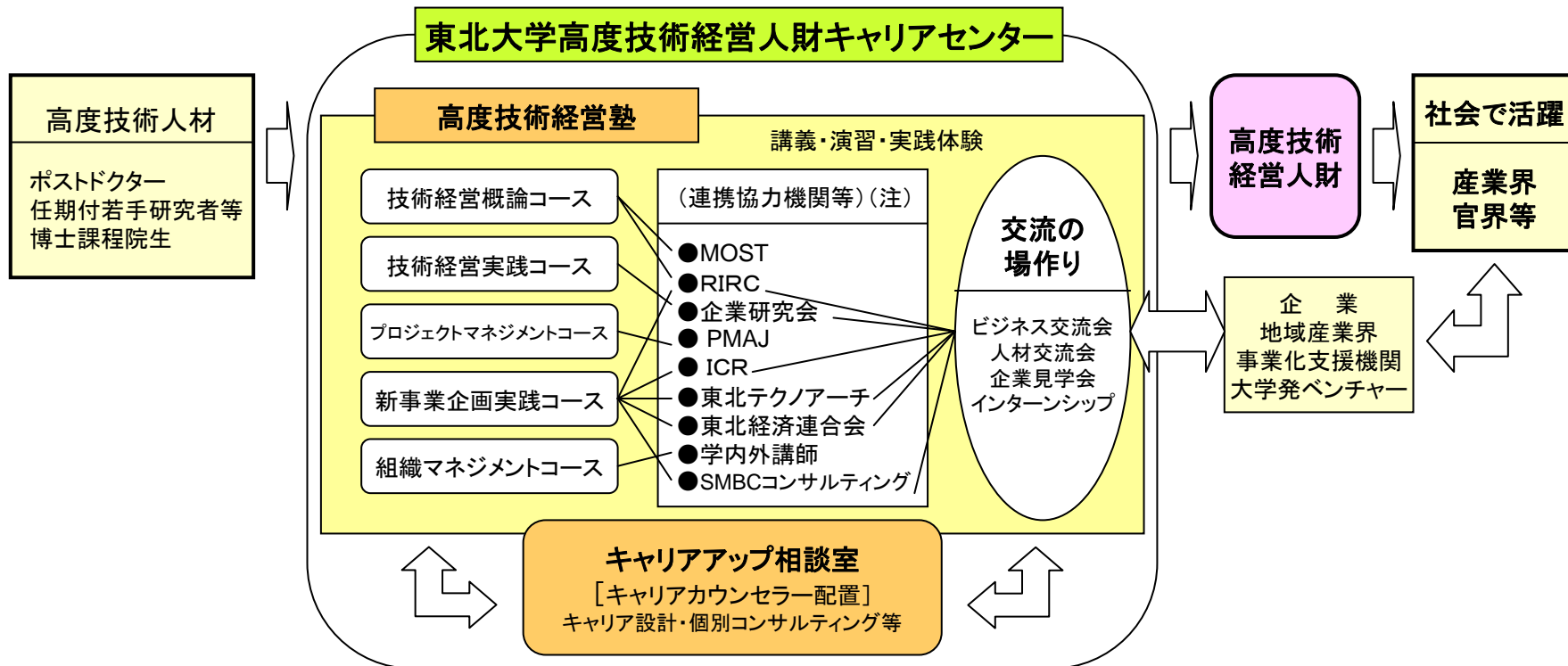
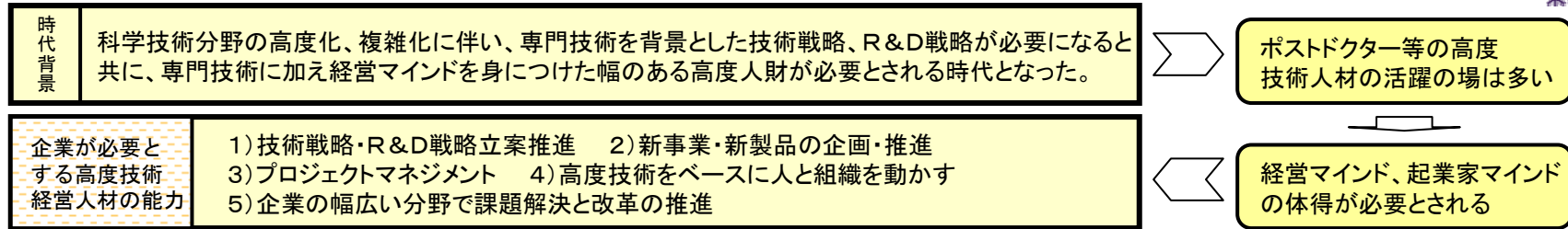
<p>達成目標（事業全体および今年度）</p> <p>1) 事業全体 ① キャリアアップ支援体制の整備、② キャリアアップのためのネットワークの構築（企業、連携協力機関等） ③ キャリアアップの実現（50名以上／3年間）、④ 大学院教育への反映</p> <p>2) 今年度（H18年度） (1) 体制の整備 ① 学内ニーズの把握と本プランに対する教員の理解・支援の獲得、② 高度技術経営塾の開設（カリキュラム整備、講師陣確保、初年度コース開講）、③ キャリアアップ相談室の開設、④ 連携協力機関を含む運営推進組織の整備 (2) 能力開発および交流の場作りによる意識啓発 ① 企業見学会および各種ビジネス交流会への参加を促し、意識啓発を図る。（30名程度の参加が目標） ② 塾の各講座へ参加の際、講師と直接交流により、高度技術経営人財に対する社会ニーズを理解し、認識を深める。 (3) 就職・転職者斡旋 初年度であり、実質的なスタートが7月末となるため、本年度は5人以上を目標とする。</p>

<p>事業実施状況（平成18年11月末現在）</p> <p>1) 体制の整備 ① 学内ニーズの把握と本プランに対する教員の理解・支援の獲得 ・ 教育研究評議会（6/20日）で担当理事より説明。学内各研究科長・各研究所長・各部局の教務担当教授を個別訪問。当センターの趣旨説明と第1期塾生募集への協力を要請。本学ホームページへ掲載PR。 ・ マスコミへの広報活動により、6月30日（金）の「河北新報」（地元の有力紙）朝刊に「ポスドクの就職、経営塾が後押し」とのタイトルで7段抜き掲載。また7月3日のNHKの地方ニュースで朝・夕放送された。 ② 高度技術経営塾の開設 —カリキュラムの整備、講師陣の確保、初年度コースの開講、 ・ カリキュラムの整備と講師陣の確保に全力を挙げ、7月27日に塾の開校式を実施。31日よりガイダンス並びに講義を開始。11月末までに、カリキュラムにそって5講座（含む合宿）合わせて、延べ52時間の講義を実施済み。 ③ キャリアアップ相談室の開設 ・ 6月23日に相談室を開設し、カウンセリングと面談を開始。11月末迄に塾生一人当たり2.5回の面談を実施。 ④ 連携協力機関を含めた本事業の運営推進組織の整備 ・ 連携協力機関を含む関係者連絡会議を1回実施。毎月企画運営委員会（産学官連携推進本部会議と連携開催）で、進捗状況の報告を実施。</p> <p>2) 能力開発および交流の場作りによる意識啓発 ① 企業見学会および各種ビジネス交流会への参加と意識啓発。企業見学会を1回実施。 ② 塾講座へ参加の際、講師との直接交流により社会ニーズを理解し、認識を深める。講師との直接交流会を2回実施。</p> <p>3) 就職・転職者斡旋 初年度で、実質的なスタートが7月末となるため、本年度は5人以上を目標。11月末までに7名の就職内定。</p>

東北大学高度技術経営人財活用プラン



東北大学



注)
 MOST: 本学大学院工学研究科技術社会システム専攻
 RIRC: 本学大学院経済研究科地域イノベーション研究センター
 PMAJ: 特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
 ICR: 株式会社インテリジェント・コスモス研究機構

* 高度技術経営塾は、東北大学内に限らず、東北地域各大学・研究機関、希望により他地域からの対象者、博士課程在籍者も受入れる予定

科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業

実施計画名 : キャリアサポート事業

実施機関名 : 独立行政法人理化学研究所

実施計画全体の取組内容

1. コンサルティング・就職相談の実施
2. 就職情報の集約及び提供
3. キャリアサポートシステムの検討・構築
4. キャリア開発セミナー及びジョブフェアの開催
5. 能力開発支援制度の導入・実施
6. キャリアサポート連絡会議（仮称）の開催
7. 総合的支援モデルの検討・構築

達成目標（事業全体および今年度）

（事業全体）

就職情報の収集・提供、キャリア開発セミナー・ジョブフェアの開催、能力開発支援制度の実施、キャリアサポートシステムを活用したコンサルティングの実施を通じて、研究者等にとって効果的な、総合的なキャリアサポートモデルを構築する。

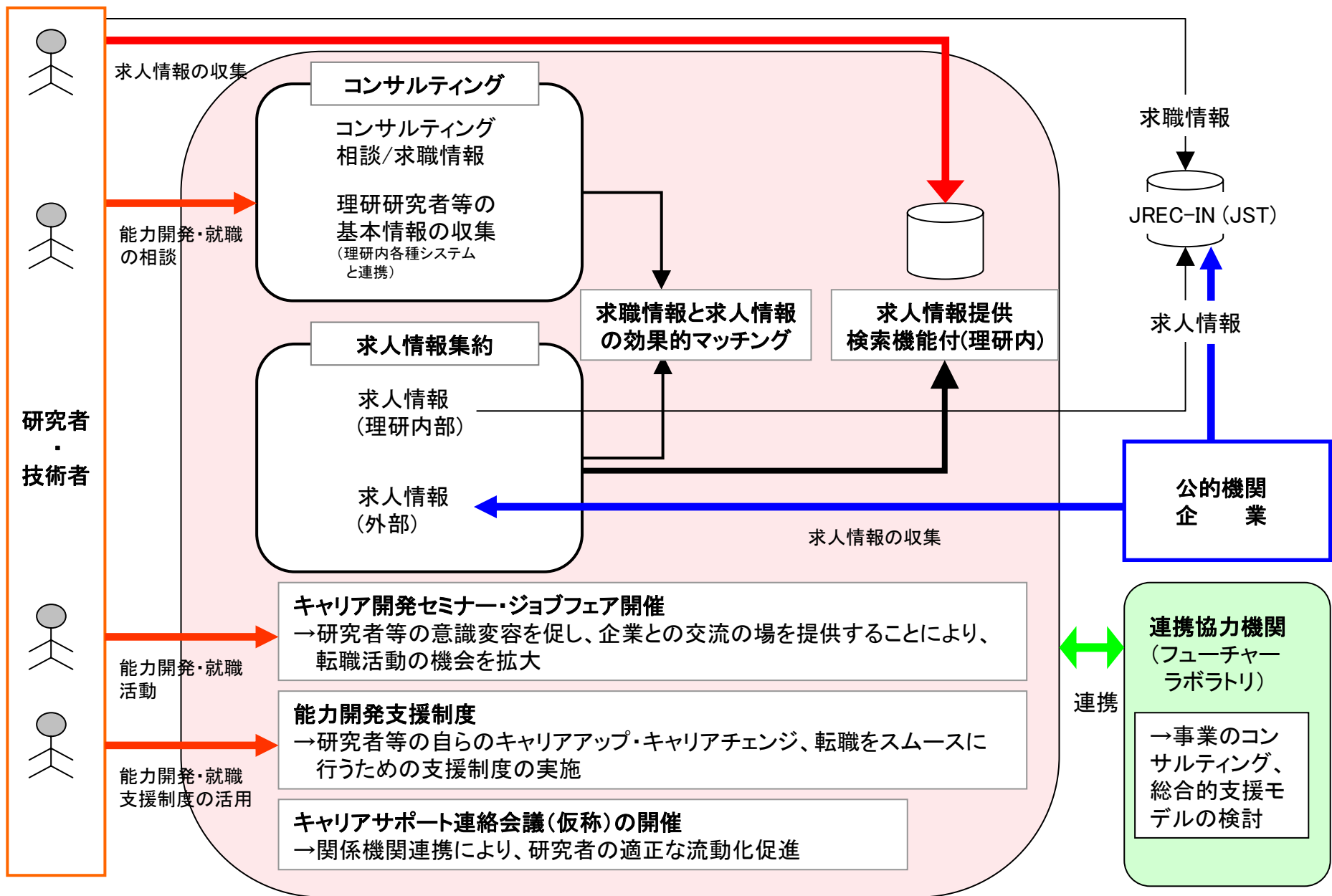
（今年度）

1. 80名、200回（1人あたり約2.5回）程度のコンサルティング・就職相談を実施
2. 200件程度の大学、研究機関及び企業等からの求人情報を収集・提供
3. 求人情報システム構築及び求職情報とのマッチングを行うための総合的情報管理システムの検討
4. 企業との連携・協力体制の構築、キャリア開発セミナー及びジョブフェア（2回程度ずつ）の開催
5. 能力開発及び転職活動等の支援に関する具体的制度の検討及び策定
6. 当所、東京大学、産総研及びJSTの4機関による定期的な情報交換等を行う連絡体制を構築
7. 連携協力機関との協力のうえ、横浜研究所等における今年度の任期終了予定者等を対象とした、キャリアパス多様化に関する調査・分析を実施

事業実施状況（平成18年11月末現在）

1. コンサルティング・就職相談 70名、135回実施
2. 大学、研究機関及び企業等からの求人情報提供 443件
3. 様々な職種・業種からの求人情報を効果的に収集し提供するため、求人情報管理システムを構築中
4. 7月5日 和光研究所 キャリア開発セミナー「研究者のキャリアを考える」（講演会）実施
10月24、25日 横浜研究所 キャリア開発セミナー及びジョブフェア「さまざまなキャリアにふれてみよう」（講演会、パネルディスカッション及び個別相談会）実施
12月13日 播磨研究所 ジョブフェア「見えてますか、あなたのキャリア」（講演会及び個別相談会）実施予定
1月17日 和光研究所 ジョブフェア 実施予定
1月31日 横浜研究所 ジョブフェア 実施予定
5. 「転職活動のための特別有給休暇付与」に関する規定を任期制職員就業規程へ追加（12月1日施行予定）
能力開発のための所内研修 英語プレゼンテーション講座（12月6日、20日）実施予定
6. 4機関連携に関する打ち合わせ会（7月28日、12月8日（予定））
→現在、具体的な連携内容に関して実務者レベルで検討中
7. 連携協力機関と協力し、各事業の評価、所内研究者へのアンケート調査分析及び企業等へのヒアリングを実施中
キャリアサポートアンケートの実施（アンケート実施期間：5月24日～6月9日）回答数 605名

キャリアサポート事業内容



科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業

実施計画名 : 早稲田大学

実施機関名 : 知的資産活用・産学連携型—科学技術関係人材キャリアパス多様化促進計画

実施計画全体の取組内容

1. 若手研究人材と企業等の交流（文理融合型によるキャリア多様化支援）

企業等と若手研究人材の「出会いの場」を数多く創出し、大学の若手研究者が産業界のニーズ、技術開発戦略を知る機会を提供するとともに、企業、ベンチャー等と人材マッチングを行うことによりキャリアパス多様化を図る。当該事業は理工系若手研究者を主対象としつつ、文理融合型で全学的な取り組みを目指す。また、ポスドク等若手研究者全員のヒアリング調査を行い、キャリアパス多様化の意識啓発を進める。ヒアリング情報はデータバンクとして整備し、産業界とのマッチングやキャリア指導の基礎資料とする。

2. 若手研究人材の多様な能力開発

若手研究者がキャリアパス多様化、産業界で活躍するために必要な能力開発を行う。具体的には連携機関の協力を得て、研究および技術開発マネージメント（技術開発動向、技術移転、知財戦略、申請書作成、プレゼンの仕方等）に関わる研修を行い能力開発に資する。また、日本人が苦手な英語コミュニケーション能力の向上も併せて検討する。

3. キャリアパス多様化の意識醸成・環境整備と産学連携大学院新設の検討

ポスドクに対するセミナーや研究指導者研修を通じて、学内におけるキャリア多様化への意識啓発に努めるとともに、企業等に呼びかけ「若手研究人材キャリアパス多様化支援コンソーシアム」の構築を図り、若手研究人材の積極活用に向けた社会環境を醸成していく。また、本事業で得られた知見を基に、日本を中心としたアジアにおける産学連携を先導し、国際的なイノベーションの担い手となる人材を輩出する大学院の新設に向けた検討を進めていく。

達成目標（事業全体および今年度）

1. 事業全体の達成目標

事業期間を通じて若手研究者 200 名程度を対象にヒアリングを実施し、ポスドクの研究状況やキャリア希望をデータバンク化することで、多様化するポスドクの価値観を的確に把握し、個人の主体性を尊重したキャリアアップ支援策を実現する。また、連携機関と協力して産業界の人材ニーズを分析し、望まれる若手研究人材モデルを構築していくとともに、ニーズに対応した各種人材育成研修を実施する。各研修の動員目標は以下のとおりである：知財関連の研修のべ 60 名、中小企業・ベンチャー・インキュベーション関連研修のべ 30 名、科学工業英語研修のべ 60 名、研究指導者研修のべ 150 名。また、最終年となる平成 20 年度には「若手研究人材キャリアパス多様化支援コンソーシアム」を構築し、民間企業の参加を募り、産学連携の中でのポスドクの活用を一層推進していく。

2. 今年度の達成目標

今年度はポスドク個人に対するヒアリングを 60 名程度実施し、各人の研究状況やキャリア希望をデータバンク化し、次年度のキャリア指導の本格展開に向けた基礎資料として整備する。各研修事業については、それぞれ事業全体の計画の 3~4 割程度の人数を本年度の実施分として動員目標に定め、取り組みを進める。

事業実施状況（平成 18 年 11 月末現在）

本学理工系学部（理工学術院、21 世紀 COE 研究拠点、先端科学・健康医療融合研究機構等）所属のポスドクのべ約 60 名に対してヒアリングを実施、その研究状況やキャリア希望のデータバンク化を行う（ヒアリングは 12 月以降も継続）。データの一部は統計的処理を行い、本事業の第 1 回企画・運営委員会で報告した。

12 月初旬からポスドク等若手研究者のキャリア多様化に向けた意識啓発、活躍領域拡大のためのスキルアップ研修を実施する予定であり、準備作業に取り組んでいる。12 月 2 日には『研究者のための自活セミナー』と題し、若手研究者が産学共同研究等に主体的に取り組むために必要となる提案公募型予算獲得の方法や周辺技術情報を学ぶ研修を実施する。また、12 月 7 日には本学における「ポスドク問題」についてポスドクや研究指導者が率直に意見を交換し、全学的な課題の共有化を図るシンポジウム「理系人材の挑戦」を開催する。なお本シンポジウムは本学総長もパネリストとして登壇予定である。また、12 月 5 日、8 日には本事業の連携機関である日本弁理士会から、14 日、15 日には同じく（独）工業所有権情報・研修会から講師の協力を受け、「研究者のための知財研修」を実施する。さらに来年 1 月には人材育成を中心とした新しい産学連携モデルのあり方を探る「産業アライアンス研修」、2 月には分野を超えて必須の技術となりつつある英文ライティングの技法を学ぶ講座を予定している。

また、キャリア多様化に向けて若手研究者の意識啓発と産業界の理解増進を目的としたキャリアガイドブックも 2 月末の刊行に向けて編集作業中である。

このほか、本年度で蓄積された本学ポスドクのキャリア情報を基に、次年度で産業界とのマッチングや実地研修等を全面的に展開していくため、関連機関との意見交換を積極的に行っている。



早稲田大学 科学技術関係人材キャリアパス多様化促進事業



若手研究人材

- ①ポストドクター
- ②任期つき助手・講師・助教授等

連携機関

- ・(独) 科学技術振興機構
- ・(独) 工業所有権情報・研修館
- ・(独) 中小企業基盤整備機構
- ・日本弁理士会
- ・日本テクニカルコミュニケーション協会
- ・(株)日経BP企画

早稲田大学 ポスドク・キャリアセンター

ポスドク・研究指導者の意識啓発
(フォーラムの開催／個別ヒアリングの実施)

若手研究者のスキルアップ
(知財／コミュニケーションなど各種研修の実施)

産業界との交流促進
(産学連携情報の提供、交流会の実施)

キャリア多様化のための環境醸成
(広報活動・産学ネットワーク化)



新たな産学連携モデルの創出

- ・若手研究人材キャリアパス多様化支援コンソーシアム
- ・文理融合型産学連携大学院

多様なキャリアパスの実現

- ・大学等の教育・研究職
- ・公的研究機関のシニアリサーチャー
- ・企業におけるシニアエンジニア
- ・知財担当、技術移転専門スタッフ
- ・弁理士、特許審査官
- ・研究開発プログラム・オフィサー
- ・産学連携コーディネーター
- ・行政機関等における産業政策スタッフ
- ・アントレプレナー
- ・ベンチャー・キャピタリスト
- ・科学技術ジャーナリスト
- ・科学技術担当・広報スタッフ



早稲田大学 知的資産活用・産学連携型—科学技術関係人材キャリアパス多様化促進計画 平成18年度の取り組み

事業目的	取り組み	内容
若手研究人材と企業の交流	産業アライアンス研修1 「産業界への貢献」	若手研究者、研究指導者および民間企業関係者等が一堂に会し、産業界のニーズ、大学への期待等の意見交換を踏まえ、大学の研究者が、今後、産業界にどのように貢献できるかの意見交換を行う。また、パネルディスカッション、企業等との面談等を行い、若手研究者（ポスドク）の産業界への流動化を目指す。（1月実施予定）
	産業アライアンス研修2 「地域への貢献」	大学の研究人材が中小企業など地域産業に貢献できる可能性、および大学発ベンチャーの課題と今後の展開についてセミナーを行う。大学と中小企業との連携について、東京都墨田区、本庄地区等の事例を検討。また、関係者でパネルディスカッションを行い、産学で課題の抽出および共有化を図る。（2月実施予定）
多様な能力開発	研究者のための知財研修	特許権を中心とした知的財産権に関する講義と、インターネットを利用した特許検索の技法を学ぶ実習を通じて、研究活動に必要な基礎的知財スキルを習得する。また、関連する研究分野の知財に関わる権利化情報を把握することにより、今後の研究活動の展開に資する。（12月実施予定）
	研究者のための自活セミナー	米国の科学技術政策動向とポスドクシステム、JSTおよびNEDOの研究開発プログラムと提案公募の応募書類作成法、プレゼンの仕方など、研究者の自活に必要な技術情報の把握と予算獲得スキルに関わる講座を行う。（12月実施予定）
	研究者のための実用英語基礎講座	研究者として最低限必要となる英語コミュニケーション能力の向上を目的として、英文ライティングやプレゼンテーションの基礎を習得する。本事業は、国際研究推進本部と連携し、主として留学等の経験が無い若手研究者を対象とする。講習は各回課題の提示と添削を行う予定。（2～3月実施予定）
キャリアパス多様化の意識醸成、環境整備	キャリアガイドブック	若手研究者のキャリアパス多様化の実例や、各機関におけるキャリアサポートの取り組み事例を紹介し、ポスドクが自身のキャリアを見つめ直し、さらなるキャリアアップを図るの一助とする。（A4オールカラー20ページ、1500部、2月刊行予定）
	ポスドク・ヒアリング	本学所属のポスドク等若手研究者全員にヒアリング調査を行い、個々の研究状況やキャリア希望をデータバンクとして整備し、産業界とのマッチングやキャリア指導の基礎資料とする。（11月末現在、理系ポスドクを中心に約60名実施）
	シンポジウム 「理系人材の挑戦」	早稲田大学における「ポスドク問題」と若手理系人材の流動化・産業界への展開についてのパネルディスカッションを行う。総長、研究指導者、本学のポスドク、産業界OBがパネリストとなり、関係者が率直な意見交換を行うことにより、問題点を抽出し把握するとともに、全学レベルで意識の共有化を図る。（12月実施予定）

科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業

実施計画名 : 博士学位取得者に対するノン・リサーチキャリアパス支援事業

実施機関名 : 名古屋大学

実施計画全体の取組内容

- ・ 組織の整備 特任助教授、事務補助員、チューター等の採用・確保
- ・ ノン・リサーチ分野におけるポスドク活用ニーズの調査
- ・ Web サイトの構築
- ・ ガイダンス・シンポジウムの開催
- ・ 学会等における広報活動
- ・ 各分野希望者の登録とチューターによる個別コンサルティング
- ・ 基礎研修コースのカリキュラム・シラバス開発
- ・ 一部基礎研修コースの開催
- ・ インターンシップ、OJT 研修先の発掘

達成目標（事業全体および今年度）

支援希望者としての登録人数

- 1年目 各分野への登録人数 各5-10名、計25名
 2年目 各分野への登録人数 各10-15名、計50名
 3年目 各分野への登録人数 各20名、計80名

進路紹介人数

- 1年目 各2-4名、計8-10名
 2年目 各3-6名、計12-20名
 3年目 各6-10名、計20-30名

事業実施状況（平成18年11月末現在）

6月に特任助教授が着任し、教授、補佐員2名の4名体制で事業が本格的にスタート。

1. ノン・リサーチ分野におけるポスドク活用ニーズの調査

人材を採用する企業・機関1,465社へアンケートとインタビューを7月中旬から8月上旬にかけて実施（三菱UFJリサーチ&コンサルティングに委託）。

- ・ アンケート回収率 347社（回答率：23.7%）
- ・ インタビュー 41社 … アンケート回答社から本事業に対して関心の高い企業・機関より選定。
- ・ 報告書

2. ホームページの構築 <http://career-path.jp> に構築。

3. 広報・PR用 パンフレット、ポスター等作製、大学等へ配布（ポスターは延べ3000枚作成・配布）

4. シンポジウムの開催 8月27日（日）に名古屋大学で開催。参加者は、164名。

12月15日（金）に、岡崎で開催予定。

5. 登録者数 81名

6. 就職実績 5名（企業、公務員（特許庁審査官補）、ベンチャー企業、NEDOフェローなど）

面接中 3名

7. 基礎研修とガイダンス 11月18日（土）に名古屋大学にて、ビジネスマナー研修とノンリサーチ4分野のグループディスカッション。参加者は、17名。

8. 個別面談 38人（のべ面談数75回）、メールによる個別支援 約530通

9. チューター 依頼人数 55人

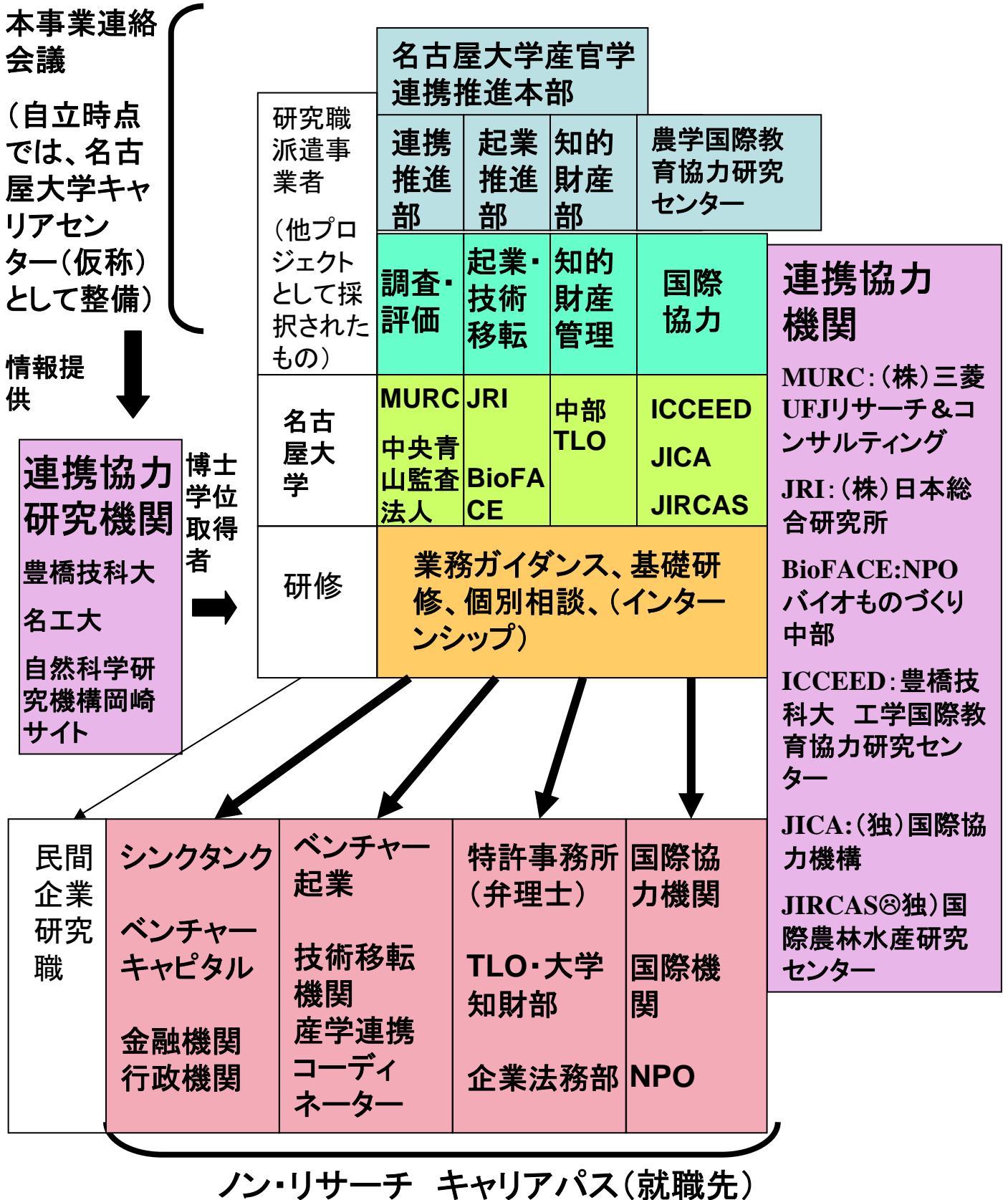
10. チューターによるガイダンス 14人（国際協力、弁理士、ベンチャー企業社長など）

11. 会社・特許事務所などの就職先マッチング 7社・機関

12. PRのための展示 8回（バイオジャパン2006、第65回日本癌学会学術総会など）

13. インターンシップ 2機関・社で実施

博士学位取得者に対するノン・リサーチキャリアパス支援事業



科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業

実施計画名 : プロジェクト活用型科学技術キャリア創生モデル事業

実施機関名 : 大阪大学 先端科学イノベーションセンター

実施計画全体の取組内容

本学では、数多くの若手科学技術人材が研究・教育・社会貢献活動に携わっており、将来日本が高度な知識基盤の上に発展を遂げるうえで、これら若手科学技術人材の活躍の場を広く確保することが求められている。しかしながら、これら若手科学技術人材のキャリアパスは現状では個人の努力のみに負うところが大きい。本事業では、こうした科学技術人材への幅広い活躍の場の提供を行っていくべきであるとの立場から、科学技術人材の主体的な取り組みによる多様なキャリアパスの認識にはじまり、具体的なキャリアを自ら創出する仕組みをつくりあげるプロセスを支援する。

■ プロジェクトの実施によるキャリア多様化

- ・ 産学社学連携プロジェクト: 産学連携/社学連携プロジェクトを通じて企業や NPO の実務者とともに実践経験を積み、狭い範囲の研究活動だけでなく幅広い視野を持つ科学技術人材を養成する。
- ・ アウトリーチプロジェクト: 他分野の科学技術人材とともに問題解決型カリキュラムを構成し、研究活動のアウトリーチ活動を通じて、社会の期待を知り、科学技術人材の多様な活躍の場を捉えることのできる人材を養成する。
- ・ 融合型研究プロジェクト: 他分野の科学技術人材とともに研究プログラムを構成することにより、専門研究以外の幅広い知識を持った融合型科学技術人材を養成する。

■ 海外インターンシップマッチングの実施

- ・ 若手科学技術人材が自らのキャリアについて考えるモチベーションやきっかけを与え、各プロジェクトを活性化させるために海外インターンシップのマッチングを実施する。

■ 情報発信と交流

- ・ 若手科学技術人材が自らのキャリアのモデルケースを知り、キャリアについて考えるために、同窓会を通じた、交流会の実施や情報提供、OB らの多様なキャリアパスの紹介、また、外部のイベント情報などの収集・提供を、若手科学技術人材の主体的な取り組みのもとに実施する。

達成目標(事業全体および今年度)

■ 若手科学技術人材のキャリアを多様化する

- ・ 若手科学技術人材が多様なキャリアを考えるきっかけを提供する。
- ・ 若手科学技術人材が多様なキャリアを考えるためのサポート環境を構築する。
- ・ 若手科学技術人材のもつ能力を生かせる新しいキャリアを創造する。

■ プロジェクトモデル化

- ・ 各プロジェクトを成功させ、実際にキャリアをつくる。一般化して展開する。

■ プロジェクトにおける雇用

- ・ プロジェクト全体にて 14 名の若手科学技術人材を雇用する。そして、モデルケースとして情報発信し、その波及効果を得る。

事業実施状況(平成 18 年 11 月末現在)

■ プロジェクトの実施によるキャリア多様化

- ・ 産学社学連携プロジェクト: 2 件の産学社学連携プロジェクトの開始。若手科学技術人材の雇用。他、数件のプロジェクト化準備。
- ・ アウトリーチプロジェクト: プロジェクト実施のための、学内、学外の協関係の構築。それぞれの現状調査。
- ・ 融合型研究プロジェクト: プロジェクト実施のための調査。カリキュラムの検討。

■ 海外インターンシップマッチングの実施

- ・ インターンシップ受け入れ先の選定

■ 情報発信と交流

- ・ キャリアセミナー4 の開催: 約 200 名の参加。多様なキャリアを知り考えるきっかけとした。
- ・ ポスドク調査の実施: 大阪大学全学 144 の施設にあるすべての研究室を対象に調査を実施。若手科学技術人材(ポスドク)と直接意見交換ができる環境を構築
- ・ ポスドクメーリングリストの運用: 若手科学技術人材へキャリアに関する情報を直接送るための環境を構築

プロジェクト活用型科学技術キャリア創生モデル事業

実施体制および事業概要

実施体制

本事業は大阪大学先端科学イノベーションセンター内に科学技術キャリア創生支援室を設置し、実施する。

大阪大学

先端科学イノベーションセンター 事務局

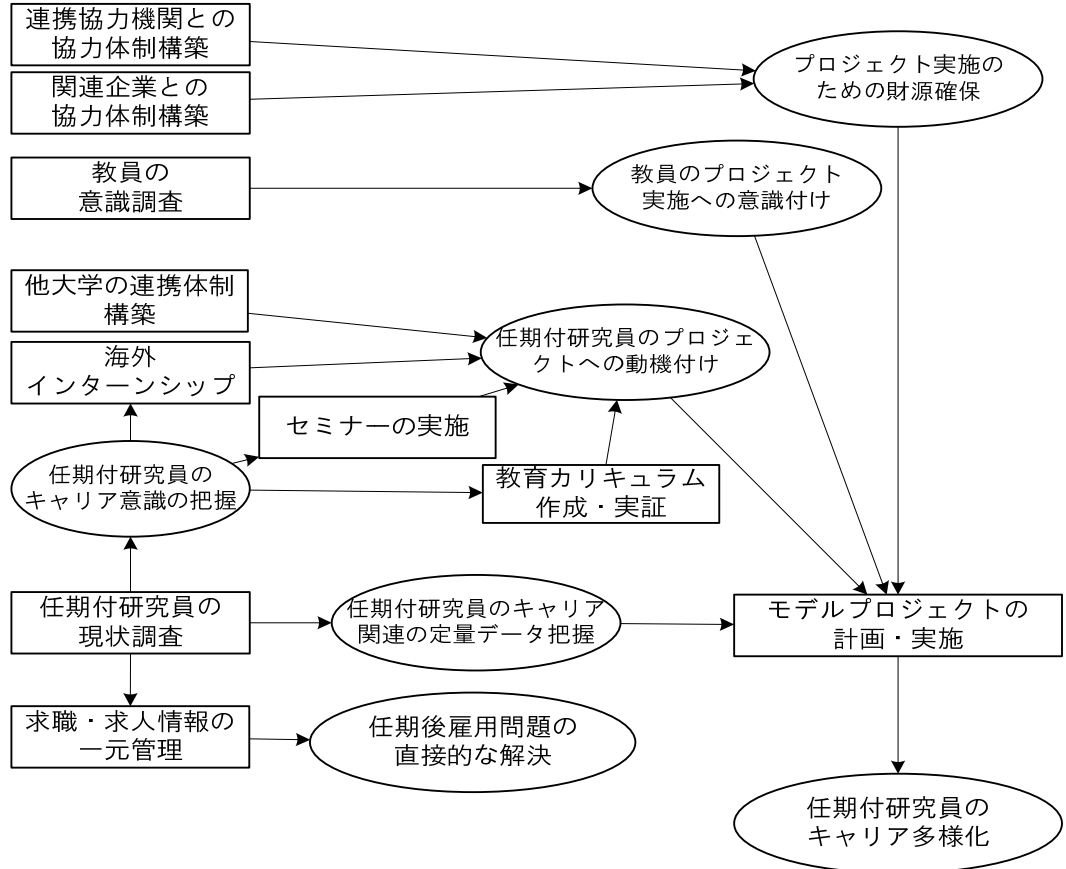
科学技術キャリア創生支援室

目的:モデルプロジェクトを実施して任期付研究員のキャリアを多様化する

- モデルプロジェクトの計画・実施
- 他大学との連携体制構築
- 任期付研究員現状調査
- 教員意識調査
- 海外インターンシップ
- 教育カリキュラム作成・実証
- 連携協力機関との協力体制構築
- セミナーの実施
- 関連企業との協力体制構築
- 求職・求人情報の一元管理

事業内容

本事業の事業内容と、それぞれの事業内容を実施することによる成果との関係を次に示す。



プロジェクト活用型科学技術キャリア創生モデル事業

実施体制および事業概要

モデルプロジェクト 想定されるモデルプロジェクトを次に挙げる

共同研究講座モデルプロジェクト

特定の企業との共同研究講座を実施、任期付研究員を雇用し、企業における研究職や研究マネジメント職へのキャリアパスの多様化をはかる。

アウトリーチモデルプロジェクト

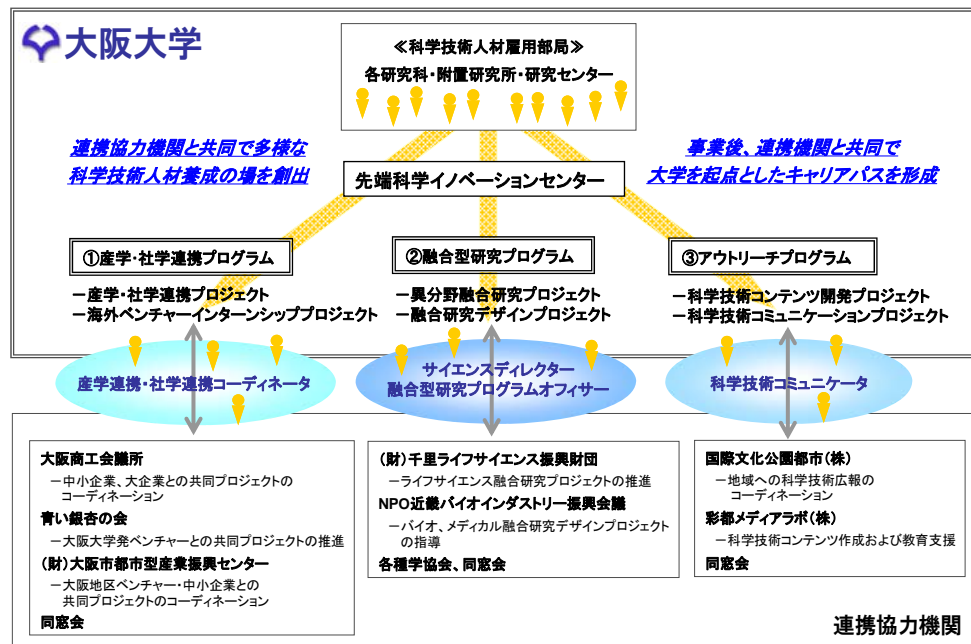
大学の社会的責任を果たすために、市民の科学技術的課題を解決するためのプロジェクトを大学が実施し、そこにプロデューサーとして任期付研究員を雇用し、キャリアパスの多様化をはかる。

科学技術政策立案モデルプロジェクト

科学技術政策を立案に寄与できる任期付研究員をモデルプロジェクトで育成し、文部科学省やその他の政策立案機関にて雇用する。

プロジェクト活用型科学技術キャリア創生モデル事業

連携機関と協力し、ポストドクター等が主体的に実践するプロジェクトを通じて社会的要請に応えた科学技術人材キャリアを創生する



科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業

実施計画名 : 産学協働型OJTを核としたキャリア形成維新プラン

実施機関名 : 山口大学

実施計画全体の取組内容

本事業では、若手研究者の代表的なキャリアとして次の3つ、

- (a)企業の研究者(企業での研究能力)
- (b)大学や公的機関での研究者(アカデミアンとしての資質)
- (c)学芸員など(サイエンスコミュニケーターとしての資質)

を考える。これらのキャリアに必要とされる能力(研究遂行およびマネジメント能力)を育成するために、任期つき助手やポストドクターに対して以下の4つのプロジェクトを実施する。

- ①双方向人材流動型共同研究: 若手研究者を長期間にわたり連携企業に派遣し、企業内でプロジェクトを共同実施する。一方企業からの人材をプロジェクト助手あるいは研究員として大学で任用し、プロジェクト研究を実施する。
- ②博物館等での研修: 科学技術展示の企画やそれを実施することによりサイエンスコミュニケーターとしての資質を涵養する。
- ③OJTを用いたプロジェクトマネジメント能力の育成、短期集中研修: 研究プロジェクトを利用したOJTによって問題発見・解決能力、企画力、プロジェクトマネジメント力を育成する。
- ④データベースの作成とそれを用いたマッチング: 任期付助手、ポストドクター、博士後期課程学生等のキャリアに関する専門分野及び希望の調査、企業等における研究開発者・高度技術者の分野ごとの需要に関して面接及びアンケート調査を行う。結果を用いてデータベースを作成し、対象者と企業とのマッチングを行う。

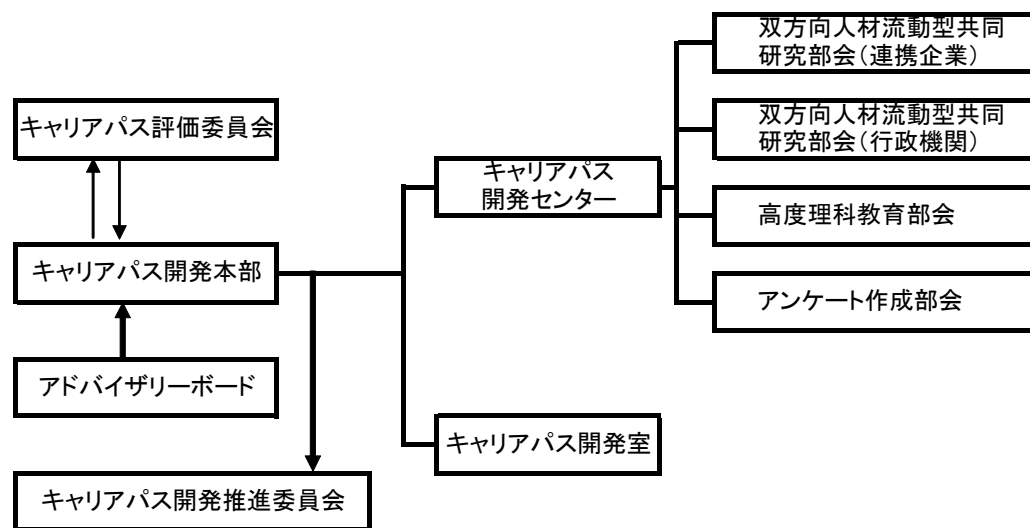
達成目標(事業全体および今年度)

- ①科学技術関係人材(若手助手、ポストドク及び博士後期課程学生)のキャリアに対する意識改革
- ②山口大学におけるキャリアパスマッチングシステム(データベース)を用いた、科学技術関係人材のキャリア活用場所の提示とマッチングを行う。これを用いて、5人/年程度の就職先を探すことにより、キャリアパス開発にデータベースが有用であることを確認する。
- ③双方向人材流動型共同研究の実施により人事交流を行い、大学・連携機関の両者に蓄積されたキャリアに関する「暗黙知」を交換する。

事業実施状況(平成18年11月末現在)

- ①キャリアパス開発センターの設置と業務: キャリアプランナー2名の雇用と共に、キャリアパス開発センターを設置。事業対象者のキャリアに関する専門分野及び希望の調査を開始した。また、企業等における分野別の需要調査を実施中である。これらの調査結果と、さらに、キャリアプランナーが企業訪問(20社/月程度 主として在京)して得た情報により、マッチングシステムにおけるデータベースを構築中、これを活用して今後企業と人材のマッチングを進める。
- ②双方向人材流動型共同研究: 連携先企業である宇部興産(株)と共同研究の内容や形態について協議後、契約締結して共同研究を実施している。(株)トクヤマとは研究内容について協議中である。
- ③派遣型研修: 山口県と研修形態について具体的に協議し、本格実施に向けて準備を開始した。
- ④博物館等での研修: 防府青少年科学館開催の“おもしろサイエンス in ソラール”での研修に助手を含む3名が参加した。さらに、来年度防府青少年科学館と協同で実施する事業やディスプレイの企画・立案を行う希望者を募集した。
- ⑤対象者の啓発をおこなうため、8月と10月にセミナーを開催した。さらに、12月と1月にTRIZセミナーを開催予定である。

【実施体制】



〈キャリアパス開発本部メンバー 5名〉

本部長: 理工学研究科長
 キャリアパス開発室: キャリアパス開発センター長
 キャリアプランナー(宇部)
 事務補佐員
 工学部事務長

〈キャリアパス開発センターメンバー 10名〉

センター長: 工学部副学部長
 理工学研究科専攻長
 技術経営研究科教授
 理学部副学部長
 キャリアパス開発室: キャリアプランナー(宇部)
 キャリアプランナー(東京)
 事務補佐員

〈キャリアパス開発室メンバー 5名〉

キャリアパス開発センター長: 工学部副学部長
 キャリアプランナー(宇部)
 キャリアプランナー(東京)
 事務補佐員
 工学部事務長

- ・ 拡大開発本部会議は、キャリアパス開発本部（以下開発本部）とキャリアパス開発センター（以下センター）に設置される部会の部会長により構成される。これと開発本部の会議を隔月に開催し、プロジェクトの進行状況をチェックする。
- ・ センターに設置する部会は、プロジェクトを責任もって遂行するために設置する。
- ・ キャリアパス開発室は、キャリアプランナーと事務補佐員で構成され、センター業務を補佐すると共に、事業に関わる一般事務を行う。
- ・ キャリアパス推進委員会は、本プロジェクトの提携機関の関係者で構成され、開発本部や提携機関同士の情報交換をおこなう。
- ・ アドバイザリーボードは、必要に応じてプロジェクトに対する助言を行う。

産学協働型OJTを核としたキャリア形成維新プラン

○背景・目的

＜背景＞・本学理工学研究科博士後期課程修了者は、ポストドクター、任期つき助手、企業など多様なポストに就職。
また、研究以外の職を希望するものも増えている。

- ・キャリアパスが明確ではないために、極めて優秀でありながら博士後期課程進学を断念する学生が多い。
→多様なキャリアパスを提示し、それへ向けたプログラムを提供することは喫緊の課題である。

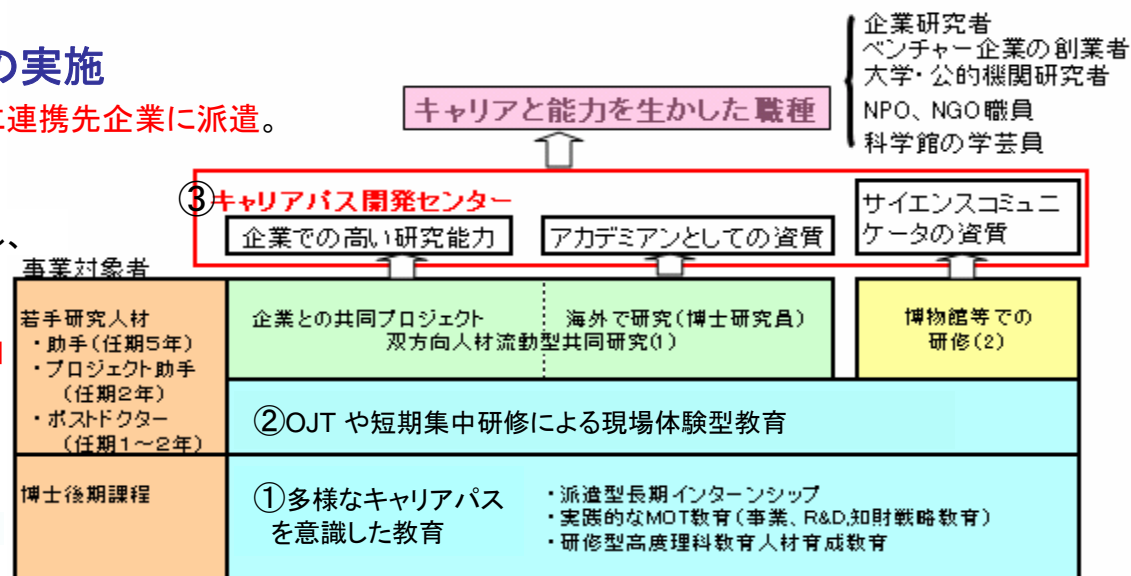
＜目的＞ (a)企業の研究者、(b)大学や公的機関での研究者、(c)学芸員などを代表的なキャリアとして取り上げ、
図に示す教育プログラム実施し、若手研究者の研究遂行およびマネジメント能力を育成する。

○プログラムの全体像

- ①博士後期課程に、多様なキャリアパスを意識した教育を、提携先機関と連携して実施
- ②若手研究者を対象に、OJTや、短期集中研修による現場体験型教育プログラムを提供
- ③理工学研究科に「キャリアパス開発センター」を設置。ここで様々なキャリアーに関する支援

○特徴: 双方向人材流動型共同研究の実施

- ①助手やポストドクターを長期にわたり定期的に連携先企業に派遣。
企業内でプロジェクトを共同実施する。
- ②共同研究を行っている企業の研究員を、
プロジェクト助手あるいは研究員として任用し、
理工学研究科でプロジェクト研究を実施
- ③提携機関との間で人事交流を行うことで、
大学・提携先の両者に蓄積された、「暗黙知」
の交換



○委託期間後の継続・展開

- ①「キャリアパス開発推進室」を設置し、
事業を継続
- ②本事業で蓄積されたノウハウを、同様機関
に適用して、連携を拡大
- ③成果を理工学研究科や技術経営研究科の
カリキュラム等に反映

科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業

実施計画名 : キャリア多様化・若手研究者活躍プラン

実施機関名 : 国立大学法人九州大学

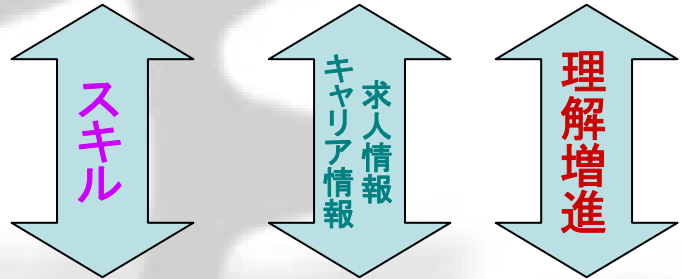
実施計画全体の取組内容
(1) ポストドクター等の求人・求職情報の集約・流通の効率性を高めることによりポストドクター等の就職機会の向上を図る。 (2) ポストドクター等の各種専門性を基盤として、ポストドクター等に必要最低限の各種ビジネス実務を理解するための実務講義・実習を受講させることにより、ポストドクター等の各種ビジネス領域におけるキャリアパスを開く。 (3) ポストドクター等にマネジメント等の非アカデミックな領域の業務に興味を持たせること、相応の社会適応力を付けさせること及びポストドクター等の研究指導者等にポストドクター等のキャリアパス多様化に関する意識啓発等を図る。

達成目標（事業全体及び今年度）
○事業全体 ・国からの委託期間終了後、今回提案する事業内容の自立的・継続的実行 ・国からの委託期間終了後、本事業参加のポストドクター等の30%以上が非アカデミックポストへ就職 ○今年度 ①キャリア支援センターの設置 ②ポストドクター等の基礎情報把握と連絡網構築 ③ポストドクター等に関わる求人・求職情報把握のための仕組みの構築・運用 ④非アカデミックキャリアパス教育プログラムの開発・運用 ⑤インターンシップ受入仕組み構築・運用 ⑥キャリアブックの作成 ⑦キャリアアップセミナー&啓発セミナー企画・開催 ⑧キャリアデザイン&ビジネスマナー講座企画・開催 ⑨シュタインバイス大学学生との交流会企画 ⑩キャリア設計支援、就職に関する個別コンサルティング体制の構築・運用

事業実施状況（平成18年11月末現在）
①キャリア支援センターの設置 7月設置済。設置に伴い、センターパンフレット及びホームページ作成。 ②ポストドクター等の基礎情報把握と連絡網構築 5回のキャリアパス多様化ガイダンス実施により、約150名のポストドクター等の基礎情報（連絡先含）把握 ③ポストドクター等に関わる求人・求職情報把握のための仕組みの構築・運用 キャリア支援センターホームページ上に、個人情報保護に配慮した求人及び求職情報収集・開示システム構築中 ④非アカデミックキャリアパス教育プログラムの開発・運用 プロジェクト管理、知的財産権、企業技術開発、記録情報管理及びベンチャー起業の5つのマネジメント教育プログラム開発済み。10月から各コース（定員30名）において、平均15名のポストドクターが受講中 ⑤インターンシップ受入仕組み構築・運用 インターンシップ受入仕組み構築済。現在1名のポストドクターに関して、受入調整中 ⑥キャリアブックの作成 企業等で活躍している九州大学等卒業生（博士課程）を15名リスト化し、随時ヒアリングを実施中（7名済） ⑦キャリアアップセミナー&啓発セミナー企画・開催 7月に開催（参加者教員及びポストドクター等約100名） ⑧キャリアデザイン&ビジネスマナー講座企画・開催 年度内3回開催計画。8月と10月2回実施済（1回目15名、2回目10名）、2月に実施予定 ⑨シュタインバイス大学学生との交流会企画 6月及び10月にシュタインバイス大学担当者と打合せ済。来年7月開催に向けて詳細準備中 ⑩キャリア設計支援、就職に関する個別コンサルティング体制の構築・運用 8月個別コンサルティングを担当するカウンセラー着任。随時、ポストドクターの要請に基づきカウンセリング及び求人・求職マッチング実施

キャリア多様化・若手研究者活躍プランの概要

ポストドクター等 教員



九州大学

キャリアパス運営委員会
(本事業運営の意思決定)

評価委員会

評価に基づく
事業改善

九州大学キャリア支援センター

- ・交流情報発信システム構築・運用
(企業等の求人情報・ポストドクター等のキャリア情報の収集発信)
- ・ポストドクター等の能力開発
(プロジェクト管理、企業技術・研究開発、知的財産取扱、ベンチャー起業、記録情報管理)
- ・意識啓発
(ポストドクター等、研究指導者を対象としたガイダンス、キャリアブック作成・配布、啓発セミナー、グループ学習、外国人学生との意見交換会・交流会、ポストドクター等の自主運営組織作り支援)
- ・その他
(労務管理研修、OB等の経験によるキャリアブック作成・配布及び啓発セミナー)

- 九州大学の協力組織
- ・キャリアサポート室
 - ・知的財産本部
 - ・組織連携企業群
 - ・VBL
 - ・研究戦略課
 - ・財務部
 - ・国際交流部

連携機関

日本レコードマネジメント
グループ

麻生グループ

シュタインバイス ジャパン

九州システム情報技術
研究所

3年間で、
ノウハウを九州
大学に移転

ただし、連携体制(連携協議会、担当者連絡会議等)及び評価委員会は維持

ノンアカデミックキャリアパスの受容(研究者・企業・一般国民)

九州大学キャリア多様化・若手研究者活躍プラン事業

キャリア支援センター

センター長
(総長指名の理事)

副センター長
(センター長指名の教員)

コーディネーター
(学術研究員)

プログラム運用管理スタッフ
(連携協力機関からの派遣者)

(業務)

- ・人材と企業等の交流, 情報発信
- ・ポストドクター等の能力開発
- ・キャリアパス多様化に関する意識の醸成, 環境整備
- ・その他

(事務)

学務部キャリアサポート室

キャリアパス運営委員会
(本事業の運営に関する
基本的事項の審議)

連携協議会
(連携協力機関との間
の協力に関する協議)

評価委員会
(本事業の運営と効果の検証)